

「日本人の意識」調査

主任司祭 フランシスコ 山口 一彦

NHKが、1973年から2018年まで、5年に1度ずつ全部で10回、「日本人の意識」調査をおこなってきて、2024年にそれらをデータサイトにまとめて公表しました。全ての回で同じ質問を繰り返しているのので、この45年間で日本人の意識がどのように変化してきたか、それがよく分かる分析結果だと言われています。いろいろと興味深い結果が出ていますが、ここでは「宗教的行動」と「信仰・信心」という項目に絞って、その一部を皆さんにご紹介いたします。

まずは「宗教的行動」……こんな質問です……「宗教とか信仰とかに関係すると思われることから、あなたがおこなっているものがありますか。ありましたら、リストの中からいくつでもあげてください（複数回答）」……結果は以下の通りです。（ ）の中の数字は、左が1973年→右が2018年です。

- ①年に1～2回程度は墓参りをしている
(62.0%→70.9%)
- ②聖書や経典などを折に触れて読んでいる
(10.7%→5.3%)
- ③身の安全や商売繁盛、入試合格などの祈願をしている
(23.0%→25.4%)
- ④お守りやおふだなどを身の回りに置いている
(30.6%→30.4%)
- ⑤宗教・信仰に関係することは何もしていない
(15.4%→11.5%)

皆さん、ちゃんとお墓参りをしているんですね(①)。これには個人的に驚きました。でも、聖書や経典を読んで宗教的な真理を求めようとしている方は、どんどん減っています(②)。その反面、神仏からの目に見えない御利益を求め人は、52年前から変わらずに、一定数いらっしゃいます(③④)。宗教・信仰に無関心の方は、以外に少ないんですね(⑤)。

次に「信仰・信心」の項目を見てみましょう……こんな質問です……「また、宗教とか信仰とかに関係すると思われることから、あなたが信じているものがありますか。もしあれば、リストの中からいくつでもあげてください（複数回答）」……結果は以下の通りです。（ ）の中の数字は、上記と同じです。

- ①神を信じている (32.5%→30.6%)
- ① 仏を信じている (41.6%→37.8%)
- ③聖書や経典などの教えを信じている
(9.7%→5.7%)
- ④あの世・来世の存在を信じている
(6.6%→10.8%)
- ⑤奇跡を信じている (12.8%→14.0%)
- ⑥お守りやおふだの力を信じている
(13.6%→15.7%)

⑦宗教・信仰に関係しているものは、何も信じていない (30.4%→31.8%)

先程の項目は「実際にどのような宗教的行動をしているか」というものでしたが、こちらの方はもっと直接的に「信仰・信心」について質問しています。いわゆる無神論者、超越的存在を何も信じない人は、約3割(⑦)。それ以外の方は、何かを信じようとしているけれど(①②⑤⑥)、昔からの先人の知恵には頼っていません(③)。聖書や経典を通して既成教団が主張していることを信用していないんですね。オウム真理教や統一教会に代表される怪しげな宗教団体が幾つもの事件を引き起こした結果、日本人の多くが宗教アレルギーになっています。心の奥では神仏を求めているのに、間に教団が入ることを拒否しています。

さらに驚きなのは、「あの世・来世」を信じている人が、たったの1割だということです(④)。前述の「お墓参り」の欄を、もう一度見てください。7割の方々が、ちゃんとお墓参りをしているのに、その殆どが「あの世・来世」を信じていないのです。どうということでしょうか。

あきらかに、現代日本人の戸惑いが垣間見られます。神仏の存在はある程度信じているし、ご先祖様への感謝の心は、儀礼的習俗的なものであったとしても、お墓参りの形で表明し続けている。それなのに、人間は死んだら終わり、何も残らない、とも思っている。即物的刹那的情報が溢れかえっている大海原で、人生の旅を導いてくれるはずの「灯台の光」を見失っている状態です。

私事ですが、今年の2月17日に、私の母が息を引き取りました。戦争中に失明し、その後も苦勞の多い人生を歩みながら、私と弟を産んで育ててくれました。信仰を持っていない弟は、かなり打ちひしがれていますが、私に「悲しみ」とか「寂しさ」はありません。純粋な「感謝」とともに、いつかは永遠の命の中で再会できるという「希望」でいっぱいです。

私たちは、イエス様の「ご復活」を知っています。そして、私たち自身もイエス様のように復活することを、強く信じています。教会にばかりいると、当たり前ようですが、こうやって世間を知れば、私たちはなんと恵まれているんだろうと思います。日々、さまざまな試練が私たちに襲いかかってきます。それでも、いつも前向きに耐える力を、イエス様は私たちに注いでくれます。この深い喜びを、教会の外で過ごしている方々に、少しでも伝えていきたいものです。